

第36回

うつのみやこども賞だより

令和元年度 1回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『子ども食堂かみふうせん』

齊藤飛鳥／著（国土社）



令和元年6月2日

～読んだ本の感想より～

- 1人1人が自分の問題に立ち向かっていて、とても良い話だった。麻耶みたいな人が本当にいるのなら助けてあげたい。
- 1人でごはんを食べる子だけじゃなく、いじりに来た子や好かれるために来た子など、たくさんいておもしろい。
- マヤがとにかく、かっこよかった。
- この本は、一章ごとに登場人物が変わって、その章ごとに登場人物の性格が明るくなっていくところがよかったです。
- 人それぞれいろいろなやみがあることがわかりました。さいごにみんながしあわせになったのがいいと思った。
- 色々なやみを解決してしまう「かみふうせん」はすごいと思う。いじめられっ子やいじめっ子の気持ちがよくわかった。

『がんばれ給食委員長』

中松まるは／著（あかね書房）

- 残してばかりいる人に「栄養はとても大事。好きな物ばかり食べてはいけない。」というメッセージがこめられた本だと思います。
- 給食委員長ががんばっているようすを読んで、感動した。
- 給食委員会のみんなど先生で、どうやって給食の食べ残しを減らせるかを協力し合っているところがとても良かったです。
- 最初は、ゆうなちゃんが委員長になって大じょうぶなのかと心配でしたが、読んでいくうちに、たよれる委員長になっていました。栄養士の先生の役わりが分かり、とても良いお話だなと思いました。

『昨日のぼくのパーツ』

吉野万理子／著（講談社）

- 最初読んでいる時は、「ちょっと下品だな…」と思っていたけど、「健康に生活していくには、大切なことなんだ。」ということに気づかされた。
- 自分たちは夏休みの自由研究の話題がなかなか身近にないので、おもしろかったです。
- 私も今まで、排泄やおならは、きたないと思っていたけど、この本をよんで排泄の大切さなどについて知ることができたのでよかったです。
- あまり本の話題に取り上げられないトイレのことについての話をはずかしがらずに、しかも『昨日までのぼくのパーツ』とちがう視点で書いているのがおもしろかったです。

『ウパーラは眠る』

小森香折／著（BL出版）

- 人のよさそうなヒルデガルドが、実は悪者だったというてんかいいおどろきました。宝石をめがけての争いもとてもハラハラして、おもしろいと思います。
- カタカナの名前がたくさん出てきて、おぼえるのは大変だったけど、すいすい読めた。最初に、あれ？と思っていたところが最後になってわかる構成になっていたので、先が気になってどんどん読めた。
- ドミニクにいろいろされてもあきらめないアイラの姿がかっこよかったです。シスター・ヨハンナやメリッサに支えられながら冒険していくのがいいなと思いました。